

薬連ハイライト

本田あきこ総決起集会が開催！

令和7年5月18日（日）に熊本市市民会館において本田あきこ総決起集会が開催されました。熊本県・九州山口をはじめ全国からの多くの薬剤師・薬業関係者に加え、熊本県の本田あきこ後援会である「顕政会」からも多くの方々が参加されました。

九州山口本田あきこ後援会の原口亨会長の開会の辞ののち、開催者として本田あきこ後援会「顕政会」の上野景昭会長、本田あきこ中央後援会の岩月進会長が挨拶されました。

当日は応援演説として、内閣府特命担当大臣の三原じゅん子参議院議員が駆けつけられ、現在の動向とともに、その中での本田あきこ議員の役割や今までの活躍について熱く語られました。

その後、激励として自由民主党熊本県支部連合会の前川収会長、木原稔衆議院議員、神谷まさゆき参議院議員、馬場成志参議院議員が挨拶されました。

1,500人の会場が満席となる熱気の中で、熊本県本田あきこ後援会の富永孝治会長による「チーム本田頑張ろう！宣言」により最高潮に達する中、閉会となりました。



本田あきこ、事務所開設

令和7年6月4日（水）に本田あきこ参議院議員の事務所開きが行われました。支援団体の関係者出席のもと、本田あきこ参議院議員は「今後、全力で活動を進めていく」と熱く決意を述べられました。

お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

・本田あきこ事務所：東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階

オレシジ日記

6月4日 先勝 事務所開き

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



全国的に梅雨の時期に入りました。蒸し暑さと時折感じる肌寒さに注意を払って体調の維持・管理に万全を期して、気象上の「暑さ」以上の「熱い」今年の夏は皆様と共に頑張ってみます。

6月4日、新宿区四谷の日本薬剤師連盟内の一室で、来る7月の参議院議員選挙の拠点となる事務所開きの神事を行っていただきました。本田あきこ中央後援会を代表して岩月会長、ご来賓の藤井基之先生、松本純先生、とかしきなおみ先生に玉串奉奠（たまぐしほうてん）を行っていただきました。当日はご支援いただいている支援団体の皆様にも大勢ご出席いただき、代表して保険薬局政治連盟の三木田慎也会長に玉串を捧げていただいたほか、製薬産業政治連盟の宮島俊彦幹事長、日本薬業政治連盟の鹿目広行会長からお言葉をいただきました。私は参議院本会議の日程と重なりましたので、書面にて欠席のお詫びとともに、薬剤師・薬業界の皆様の声と思いを「組織候補の私が届けなければ誰が届けるんだ」という強い気持ちで二期目の難しい選挙に挑み、乗り越えていく決意をお届けしました。

いよいよ党本部も天王山と位置づけた決戦の時が間近に迫りました。8月以降の「薬連ハイライト」を現職議員として引き続きお届けできるよう、しっかりと「思い」と「実績」を伝え、“やれることは全部やる!!”。そして“成果で応える夏”にしてみたいです。

政 幸 だ よ り

医薬品提供体制の構築と 後発医薬品調剤体制加算について

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



令和7年5月8日と13日の厚生労働委員会で薬機法改正審議の質問に立ちました。今回は医薬品提供体制の構築と後発医薬品調剤体制加算についてお伝えします。

ある地域では無薬局地域にしないため、人口減少下でも赤字店舗を続けている事例を耳にします。在宅患者対応を含む医薬品提供体制の確保は喫緊の課題です。改正案には、薬局開設者の責務として関係行政機関との連携等が盛り込まれました。政府に対し、今後あらゆる地域での医薬品提供体制の構築や多職種連携推進に向けた取組を質しました。

厚労省からは、医療ニーズや医療提供体制は地域ごとに大きく状況が異なることから、医薬品提供体制についても、地域の実情に応じた体制を整備することが求められており、行政を含む関係機関や関係団体と連携し、実情に応じた対応を行うことが重要。これを踏まえ、薬局開設者は行政機関との連携の下で医薬品等の安定的な供給を図ることを明記。厚労省では体制強化のため、地域薬剤師会において、薬局間連携推進等による夜間、休日対応、在宅対応等に係る医薬品提供体制の構築・強化を行うための事業を令和7年度予算事業として実施し、これらの取組を通じて、地域における薬局による医薬品提供体制の構築、強化を推進してまいりたいとの回答を得ました。

また後発医薬品調剤体制加算が果たしている役割について、厚労大臣の認識を質したところ、この加算は先発と後発の両方を取り扱うことに伴い発生する作業等について報酬上の評価を行うものであり、不安定な供給問題に対し複数の医薬品卸への問合せや、融通を依頼する等の業務が追加的に生じていることも承知しており、薬局の負担なども踏まえながら中医協において検討を進めてまいりたいとの回答を得ました。

大臣に対し、4月の薬価改定で発生したカットオフ値の激減対応や、高額医薬品の不動在庫・廃棄の問題についても検討を要望しました。